

大学院_文芸学研究科

論文評価の観点	論文評価基準	A	B	C	D
研究テーマ	自らの問題意識が明確になっている。	自らの問題意識が極めて十分に明確になっている。	自らの問題意識が十分に明確になっている。	自らの問題意識が明確になっている。	自らの問題意識が明確になっていない。
	先行研究をふまえたうえで、研究の意義・妥当性が主張されている。	先行研究を十分ふまえたうえで、研究の意義・妥当性が明確に主張されている。	先行研究を十分ふまえたうえで、研究の意義・妥当性が主張されている。	先行研究をふまえたうえで、研究の意義・妥当性が主張されている。	先行研究をふまえておらず、研究の意義・妥当性が主張されていない。
研究方法	十分かつ適切な資料を元としている。	十分かつ適切な資料を十分かつ有効に元としている。	十分かつ適切な資料を有効に元としている。	十分かつ適切な資料を元としている。	十分かつ適切な資料を元にしていない。
	有効な整理分析・考察が行われている。	極めて十分に有効な整理分析・考察が行われている。	十分に有効な整理分析・考察が行われている。	有効な整理分析・考察が行われている。	有効な整理分析・考察が行われていない。
論述	全体の構成・展開が論の必要を満たすとともに、首尾一貫した記述になっている。	全体の構成・展開が論の必要を満たすとともに、首尾一貫した明確な記述になっている。	全体の構成・展開が論の必要を満たすとともに、首尾一貫した明確な記述になっている。	全体の構成・展開が論の必要を満たすとともに、首尾一貫した記述になっている。	全体の構成・展開が論の必要を満たすおらず、首尾一貫した記述になっていない。
	論文として期待される体裁・表現ができています。	論文として期待される体裁・表現が十分有効にできています。	論文として期待される体裁・表現が十分できています。	論文として期待される体裁・表現ができています。	論文として期待される体裁・表現ができていない。
研究成果	結果・結論が、その問題点も含めて明示されている。	結果・結論が、その問題点も含めて十分明確に明示されている。	結果・結論が、その問題点も含めて十分明示されている。	結果・結論が、その問題点も含めて明示されている。	結果・結論が、その問題点も含めて明示されていない。
	研究上の何らかの独自性あるいは斬新性をもつ内容になっている。将来的な展望が示されている。	研究上の何らかの独自性あるいは斬新性を十分にもつ内容になっている。将来的な展望が明確に示されている。	研究上の何らかの独自性あるいは斬新性をもつ内容になっている。将来的な展望が明確に示されている。	研究上の何らかの独自性あるいは斬新性をもつ内容になっている。将来的な展望が示されている。	研究上の何らかの独自性あるいは斬新性をもつ内容になっていない。将来的な展望が示されていない。

口頭発表・口頭試問評価の観点	口頭発表・口頭試問評価基準	A	B	C	D
理解力	研究の内容について十分に理解し、簡潔・適切に説明できる。	研究の内容について十分に理解し、極めて明確に簡潔・適切に説明できる。	研究の内容について十分に理解し、明確に簡潔・適切に説明できる。	研究の内容について十分に理解し、簡潔・適切に説明できる。	研究の内容について十分に理解しておらず、簡潔・適切に説明できない。
論理性	研究の内容に関して指摘される問題点について、論理的に説明できる。	研究の内容に関して指摘される問題点について、極めて明確に論理的に説明できる。	研究の内容に関して指摘される問題点について、明確に論理的に説明できる。	研究の内容に関して指摘される問題点について、論理的に説明できる。	研究の内容に関して指摘される問題点について、論理的に説明できない。
展望	研究の将来的な展望について、説明できる。	研究の将来的な展望について、極めて明確に説明できる。	研究の将来的な展望について、明確に説明できる。	研究の将来的な展望について、説明できる。	研究の将来的な展望について、説明できない。